

- 1 単元名 津澄小学校「のりものすごいぞアプリ」をつくろう
 教材名 「じどう車くらべ」(光村図書1年下)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、津澄小学校「のりものすごいぞアプリ」をつくって、友達と紹介し合う言語活動を設定した。絵や写真と関連付ける文章を読み「しごと」と「つくり」に着目することで、図鑑の中から必要な言葉を選んだり、順序に沿って文章の構成を考えたりする力を付けることができる。本単元でねらう読むことの指導事項(1)「エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」と書くことの指導事項(1)「イ自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」を実現できると考える。

3 単元について

- (1) 児童の実態 (男子*人 女子*人 計*人) (*月*日実施 調査人数*人)
 〈実態調査1〉

「3段落構成の短い説明文を読んで、文章の中の大事な言葉や文を書き抜く問題」(全5問)

5問中全問正答	4問正答	3問正答	2問正答	1問正答	正答なし
*人	*人	*人	*人	*人	*人

〈実態調査2〉

「3段落構成の短い説明文を読んで、事柄の順序を考えながら読む問題」

正しく3段落に並べることができる	だいたいあてはまる	あてはまらない
*人	*人	*人

前単元の「くちばし」では、「問い」と「答え」を書くことのできるカードを使って、動物や鳥のクイズ大会を開いた。しかし、カードに書く段階で、余分な事柄まで書いてしまったり、どの言葉を書けばよいのか迷ったりして、必要な部分を書き抜くことは不十分であった。そこで、大事な言葉や文を抜き出しているか、適切な順序に沿って、文章構成を考えているかの実態調査を行った。

実態調査の結果から、大事な言葉や文を書き抜くことに課題がある児童が半数以上いることが分かった。また、事柄の順序を考えながら読むことのできる児童が半数いるのに対し、残りの児童は、事柄の順序や構成を意識しないで、文章を読んでいることが分かった。そこで、教科書教材文の効果的な提示や、並行読書のための図書の活用などを通して、大事な言葉や文を書き抜いたり、事柄の順序を考えながら読んだりする力を育てる必要性がある。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領第1・2学年の内容「読むこと」の指導事項(1)「エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」及び「書くこと」の指導事項(1)「イ自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」を踏まえて設定する。乗り物の仕事と作りの関係に興味・関心をもって読み、ほかの乗り物を説明する文章を書くことが学習の中心となる。

本教材「じどう車くらべ」は、この時期の児童にとって興味・関心の高いものの一つである自動車を取り上げた説明文である。本教材では、なかでも特に有名な自動車を取り上げてある。さまざまな役割をもつそれぞれの自動車が、その「仕事(はたらき)」のために、その「つくり(形態・構造)」になっているのだということが分かりやすく説明されている。このことから、児童が事柄の順序を考えながら読み進めるのに適した教材であるといえる。また、身近な自動車という題材であることから、児童の意欲的な学習活動を促すことができると考える。

本教材は、列挙型の説明文であり、自動車を比べるにあたって、「しごと」「つくり」という観点を得られれば、いくつでも挙げていくことが可能である。二つの観点と、「そのために」でそれらがつながっていることを、しっかり押さえることで1年生でも簡単な構成を捉えやすい教材である。

(3) 指導観

本単元は「津澄小学校のりものすごいぞアプリ」をつかって友達と紹介し合う言語活動を行う。「のりものアプリ」の中に「のりものすごいぞカード」を入れていく活動を取り入れる。カードは①乗り物の種類の名前，②仕事，③つくり，④すごいところの順序で記入できるようにつくりにし、「自分で読み取る」，「ペアで確認する」，「カードに記入する」といった活動を展開することで，友達と協力しながら事柄の順序に沿って文章の構成を考えさせていきたい。

読んでいる図鑑や教科書教材にある乗り物の「名前」「仕事」「つくり」の部分に付箋を貼っていくことで，たくさんの情報の中から，自分が必要とする情報を意識させたい。付箋を貼ることで必要な情報が見付けられているか，教師側からも一目瞭然で分かるが，友達と交流した際に色分けした付箋は，児童が分かりやすいという利点があると考え。そして「色分けできる」とえ間違えても「動かしやすい」という利点を利用し，活動できるようにさせたい。それが，大事などころを見付けたり書き抜いたりすることへの，視覚的焦点化となると考える。

さらに，単元のはじめに教師の作った「のりものすごいぞカード」を提示し，自分の好きな乗り物のアプリをつくることを知らせる。教室背面には，全員の津澄小学校「のりものすごいぞアプリ」を提示し，その中に「のりものすごいぞカード」をためていくことで，児童が，言語活動の見通しをもったり，目的意識をもったりして取り組むことができると考える。さらに，教科書教材を縦に並べて比べて読むことで，文章構成の共通点に気付かせていきたい。このほか，学習計画表の掲示や，並行読書のための乗り物図鑑コーナーの位置付け，国語ファイルの活用といった手立てを工夫し，ねらいに沿った力を付けていけるようにしたい。

4 単元の見目標

- 興味をもった乗り物に関する情報を得るために，乗り物について説明されている絵本や図鑑，文章などを読み，進んで調べようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 伝えたい事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，順序に気を付けて書くことができる。
(書くこと)
- 事柄の順序を考えながら内容の大体を読み，文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。
(読むこと)
- 文の中における主語と述語の関係に注意して文や文章を読んだり，書いたりすることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
乗り物の仕事やつくりなどが書かれた図鑑に関心を持ち，進んで文章を読もうとしている。	好きな乗り物の仕事，構造，すごいところを，読む人が分かりやすいように順序に気を付けて書いている。	乗り物の図鑑を読んで，自分がすごいと思う仕事や構造について，大事な言葉や文を書き抜いている。	文の中における主語と述語の関係に注意して文章を読んだり，書いたりしている。

6 単元の指導計画（12時間扱い）○は本時

次	時	主な学習活動	主な評価
1	1	・知っている自動車について話し合う。 ・図鑑と「のりものすごいぞアプリ」の例を見て，学習課題への意欲をもつ。	・「のりものすごいぞアプリ」を作ることが分かり，進んで図鑑を読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
	2	・「のりものすごいぞアプリ」に入れるカードにはどんなことを書きたいか話し合う。 ・津澄小学校「のりものすごいぞアプリ」という学習課題を設定し，学習計画をたてる。	・「のりものすごいぞアプリ」にどんなことを書きたいか思いをめぐらせて，アプリ作りの学習の見通しをもとうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
	3	・図鑑にはどんなことが書いてあるか話し合う。 ・乗り物図鑑には，どんな乗り物がある	・乗り物図鑑には，自動車以外にも乗り物が紹介されていることを確認し，乗り物の仲間分けをしている。

	か確認する。	(読む能力)	
2	4	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の乗り物のすごいと思ったところがどこか話し合う。 図鑑の乗り物の、カードに書きたいすごいところは、どんなところか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の乗り物のすごいと思ったところがどこか分かり、カードに書きたいすごいところを見付けている。 (読む能力)
	5	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の書き方のひみつを見つける。 バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を比べながら読む 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を見付けている。 (読む能力)
	6	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の書き方のひみつを見つける。 トラックやクレーン車の「しごと」と「つくり」をく比べながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を見付けている。 (読む能力)
	7	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の書き方のひみつを見つける。 はしご車の「しごと」と「つくり」を考える。 はしご車について説明する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵や、自分の知識などをもとに、はしご車の「しごと」と「つくり」を抜き出し、カードに書いている。 (読む能力)
	⑧	<ul style="list-style-type: none"> 「のりものすごいぞカード」に書きたい図鑑の乗り物を選び、「しごと」と「つくり」を抜き出し、その文を書き抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> 図鑑を読んで、「しごと」と「つくり」を抜き出し、カードに書いている。 (読む能力)
	9	<ul style="list-style-type: none"> 「のりものすごいぞカード」にすごいところを書いて1枚目を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「のりものすごいぞカード」にすごいところを見付けて書いている。 (書く能力)
3	10	<ul style="list-style-type: none"> 1枚目のカードの書き方を思い出して、違う乗り物でカードを書いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ乗り物について、「名前」「しごと」「つくり」「すごいところ」を順序に気を付けて書いている。 (書く能力)
	11	<ul style="list-style-type: none"> 違う乗り物でカードを書いてみる。 友達と交流し、よくする工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語との関係に注意して文を書いている。 (言語についての知識・理解・技能)
	12	<ul style="list-style-type: none"> できあがったアプリを紹介し合う。 感想をカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と作品を読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合っている。 (書く能力)

7 本時の学習

(1) 目標

- 図鑑から選んだ乗り物の「しごと」と「つくり」について説明した文や文章を抜き出し、カードに書くことができる。

(2) 準備・資料

図鑑，学習計画表，掲示用教科書教材文，付箋（赤と青），のりものすごいぞカード，自動車の写真や絵，実物投影機

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価⑧
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>すきなのりものについての「しごと」と「つくり」をみつけて、「のりものすごいぞカード」にかこう。</p> </div> <p>(1) 教科書の好きな乗り物のところを音読する。</p> <p>(2) 学習の流れを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各自、机上に図鑑とカードを用意しておく。 前時に使用した物を掲示しておいて、教科書の乗り物について振り返ることで乗り物の「しごと」と「つくり」を意識できるようにする。 学習の流れを確認し、見通しをもって学習が進められるようにする。
<p>2 図鑑を読んで、「しごと」と「つくり」を探して、付箋を貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図鑑に仕事は赤，つくりは青の付箋を貼っていく。 見付けられない場合は、同じ仲間の乗り物の図鑑を見ている児童と聞き合うように支援する。

- ・レスキュー車は人を助ける仕事だな。どんな仕事だから、赤を貼るんだな。
- ・クレーン装置があるよ。クレーン装置はつくりだから、青を貼るんだな。
- ・ブルドーザーはきれいな道路をつくる仕事だな。
- ・車についているものがたくさんあると困るな。
- ・仕事をするのに、よく使うものにしよう。

3 カードに書く乗り物はどんな乗り物か伝え合う。

(1) 全体で確認する。

- ・名前→仕事→つくりの順番で話してくれると分かりやすいです。
- ・図鑑を指差しながら話してくれると、よく分かります。
- ・最初に、名前から話してくれると、分かりやすいと思います。

(2) ペアで伝え合う。

- ・この乗り物の名前は、レスキュー車です。
- ・仕事は、人を助ける仕事です。
- ・(そのために) 人を助けるためのクレーン装置があります。

4 カードに自分で選んだ乗り物について書く

(1) 自分で考える。

(2) 全体で話し合う。

5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。

- ・つくりがたくさんある場合には、仕事に合ったすごいと思うものを選びよきを確認する。
- ・前に読んだすごいと思うところと同じ場所に付箋を貼る場合があることを確認する。

- ・教科書の「そのために」は仕事とつくりを結びつける言葉だということを確認し、使って書くと分かりやすいことを助言する。
- ・図鑑を見せながら話すと分かりやすいことを確認する。
- ・ペアになり乗り物の名前、仕事、つくりの順番で話すことを児童同士が確認できるように助言する。

- ・何をすればよいか迷っている児童には、順番に話せるように、付箋に番号をふったり、一緒に指し示したりしながら話すよう支援する。

- ・どんなのりものか分かりやすく話せた児童に発表させる。(グットモデル)

- ・付箋を付けたところを見ながら、カードの前半部分を書くことを確認する。
- ・細かい書きぶりは指定せず、乗り物の仕事とつくりを書いていくように、指示する。
- ・「つくり」については、一つか二つ書ければよきを確認する。
- ・書き出せないでとまどっている児童には、板書や掲示用教科書教材文を見て、考えてみるよう助言する。
- ・なかなか書けない児童には、教材文をまねた簡単な組み立ての文と一緒に考えていくようにする。
- ・書き終わったら、読み返し、掲示してある教材文と比べてみるよう助言する。
- ・数名の児童に発表させ、選んだ乗り物の「名前」、「しごと」、「つくり」の順番になっているか確認する。
- ・全体の前で発表するときには、実物投影機を使い、書いた文章を全員で見ながら聞けるようにする。
- ⑦ 図鑑を読んで、「しごと」と「つくり」について、文や文章を抜き出し、カードに書いている。
(読む能力) (付箋・カード)

- ・本時の学習を振り返り、学習計画表の振り返り欄に記入する。